

健康とくらしの調査 2022年

地域診断 概要 町田市

JAGES（Japan Gerontological Evaluation Study, 日本老年学的評価研究）は、健康長寿社会をめざした予防政策の科学的な基盤づくりを目的としています。2022年度には、全国の75市町村と共同し、約35万人の高齢者を対象にした調査を行い、全国の大学・国立研究所などの約50人の研究者が、多面的な分析を進めています。

本概要は、JAGESが実施した「健康とくらしの調査 2022」データを用い、介護予防や地域づくりに向けた地域診断の概要をまとめたものです。

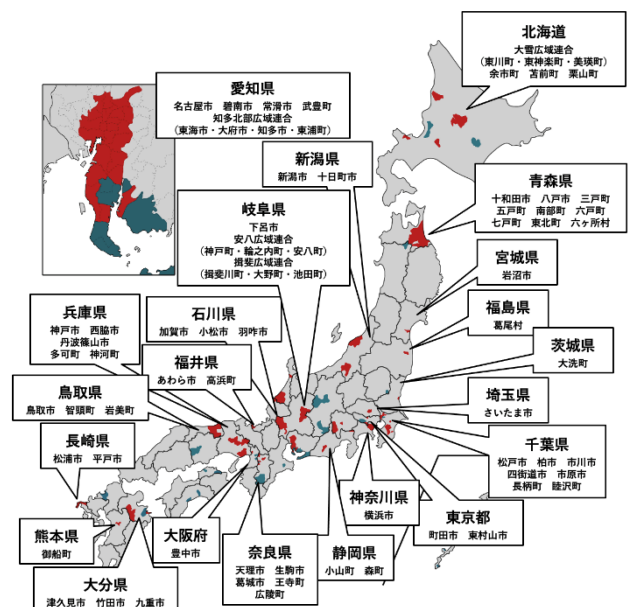


表1 健康とくらしの調査概要

対象者	一般高齢者+総合事業対象者+要支援者
実配布数	7,993人
調査期間	第3期 (2022/12/05-2022/12/26)
回収数 (率)	5,457票 (68.3%)
集計数 (率)	5,361票 (67.1%) *調査票番号切取り票を除いた
調査方法	サンプリング調査

表2 全参加自治体_健康とくらしの調査概要

対象者	調査実施直前で65歳以上のもの
参加数	75市町村 (66保険者)
対象者数	338,242人
配布回収	郵送法、一部訪問調査
調査期間	2022年11月7日～2022年12月26日
回収数 (率)	227,731票 (67.3%)
調査方法	全数調査またはサンプリング調査



特徴・強みと課題

目的

他の市町村と比べた、特徴・強みや課題と思われる指標を明らかにすることを目的に比較分析をしました。

方法

JAGES2022年度調査では、同じ方法（調査票、郵送回収、集計方法）で全国75市町村の要介護認定を受けていない65歳以上を対象に健康状態や社会参加状況などを比較しました。

結果

75市町村と比較して見えてきた強みと課題は以下の通りです。

1. 強み指標

表3 75市町村と比較した特徴・強みの指標

指標名	今回	順位	前回	改善状況	回答者数	平均値	最小値	最大値
運動機能低下者割合(基本チェックリスト)	6.0	3	5.4	-0.6	3,886	8.8	5.3	14.8
30分以上歩く者の割合	79.0	3	75.3	-3.7	3,843	74.1	65.2	80.4
特技や経験を他者に伝える活動参加者(月1回以上)割合	6.8	5	7.8	1.0	3,804	5.1	1.9	8.0
公園や歩道が徒歩圏内にある者の割合	86.2	5	88.6	2.4	1,885	73.5	45.1	88.7
IADL(自立度)低下者(1項目以上)割合	7.6	7	6.5	-1.1	3,887	9.9	6.4	15.6
図書館を利用する割合	16.8	7	21.7	4.9	434	12.3	0.0	25.3
1年間の転倒あり割合	23.6	8	22.9	-0.7	3,875	26.7	23.1	38.8
残歯数19本以下の者の割合	32.8	8	39.6	6.8	3,843	40.8	30.3	71.1
主観的健康感が良い者の割合	86.8	9	87.0	0.2	3,869	84.2	78.1	88.0
スポーツの会参加者(月1回以上)割合	28.5	10	31.2	2.7	3,813	23.3	6.6	37.3
趣味の会参加者(月1回以上)割合	29.0	10	37.5	8.5	3,816	24.4	7.6	36.2

- 健康関連指標での強み指標は「運動機能低下者割合」「IADL低下者割合」「残歯数19本以下の者の割合」「主観的健康感が良い者の割合」などでした。
- 社会参加・交流関連指標での強み指標は「特技や経験を他者に伝える活動参加者割合」「趣味の会参加者割合」「スポーツの会参加者割合」などでした。

2. 課題指標

表4 75市町村と比較した課題指標

指標名	今回	順位	前回	改善状況	回答者数	平均値	最小値	最大値
友人知人と会う頻度が高い(月1回以上)者の割合	60.1	71	65.1	5.0	3,852	67.2	57.1	80.3
社会的役割低下者割合	34.7	65	29.2	-5.5	3,883	31.5	18.1	38.4
独居者割合	17.7	60	17.1	-0.6	3,854	16.0	7.7	34.6
収入のある仕事への参加者(月1回以上)割合	29.2	59	31.4	2.2	3,619	32.7	24.4	46.8
老人クラブ参加者(月1回以上)割合	3.7	54	5.5	1.8	3,794	5.4	0.6	25.1
ブレフレイルあり割合	34.0	50	29.7	-4.3	3,931	33.8	28.4	40.1
交流する友人(10人以上)がいる者の割合	25.2	49	29.7	4.5	3,851	26.5	17.7	36.9
通いの場参加者(月1回以上)割合	9.0	39	12.0	3.0	3,815	9.6	1.5	19.8

- 健康関連指標で順位が下位2割に留まるのは、「社会的役割低下者割合」でした。「独居者割合」「ブレフレイルあり割合」は下位4割以内でした。
- 社会参加・交流関連指標では「友人知人と会う頻度が高い者の割合」が下位2割以内でした。「収入のある仕事への参加者割合」「老人クラブ参加者割合」「交流する友人がいる者の割合」は下位4割以内でした。「通いの場参加者割合」は参加市町村中では中位ですが、前回(12.0%)よりも3%ポイント低下(9.0%)していました。

特徴・強みや課題と関連する要因

目的

どのような要因が、特徴・強みあるいは課題と関連するのかを明らかにすることを目的に分析しました。

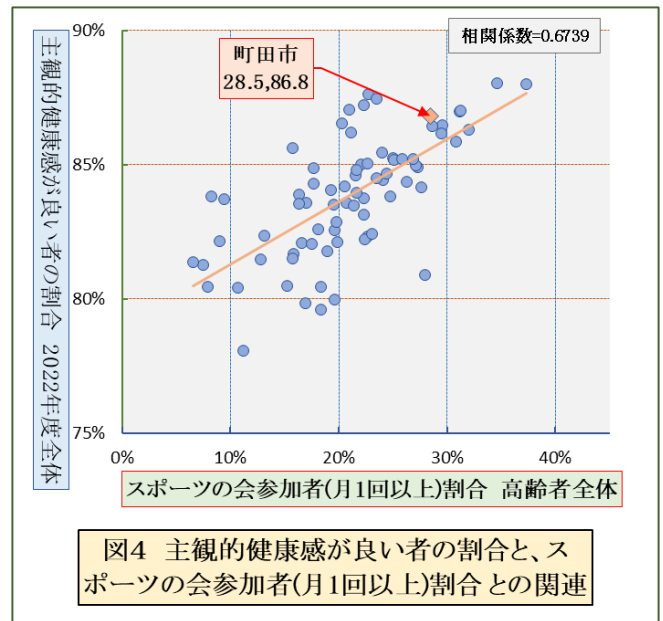
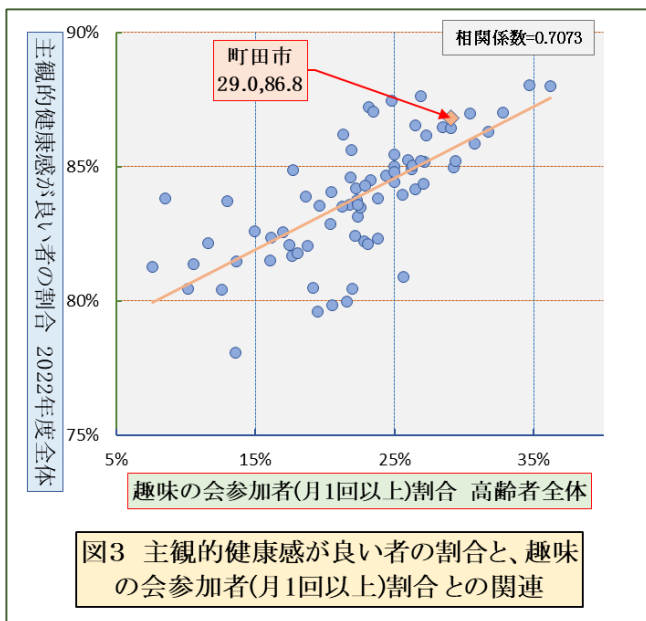
方法

JAGES2022年度調査に参加した75市町村のデータを用いて、指標との相関が強い要因を探りました。

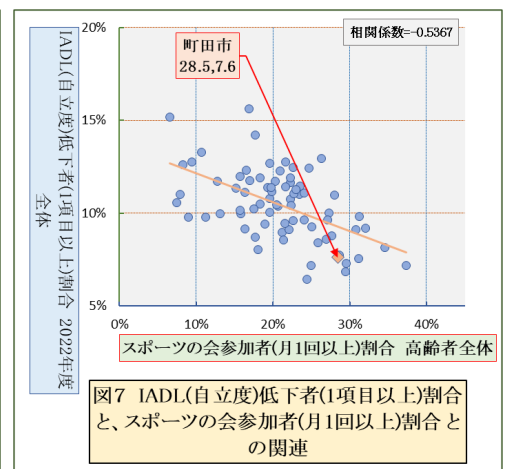
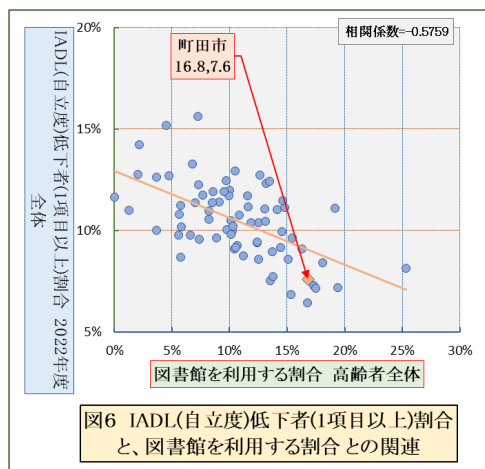
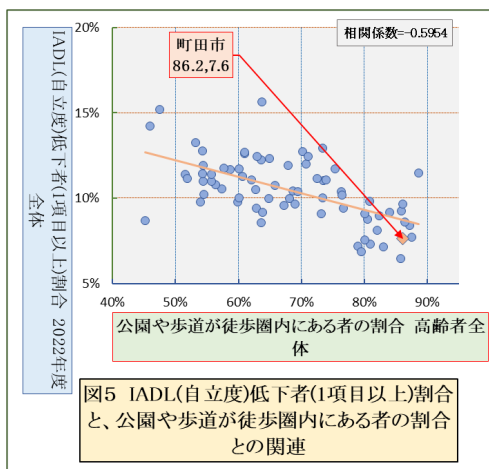
結果

特徴・強みや課題と関連する要因は以下のようなものがありました。

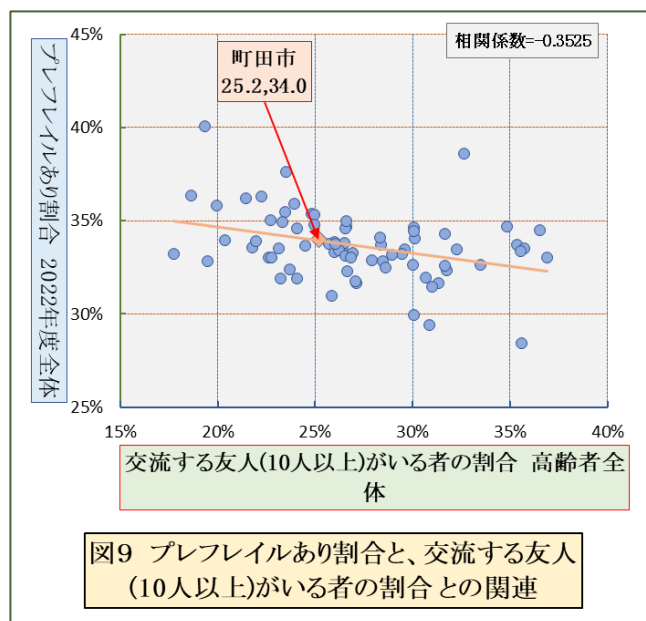
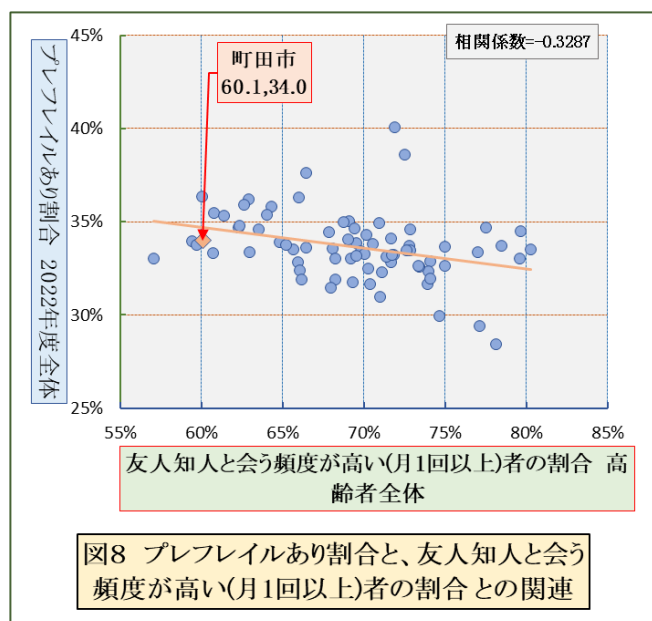
1. スポーツ・趣味の会参加者割合が多いほど、主観的健康感が良い者の割合が多い



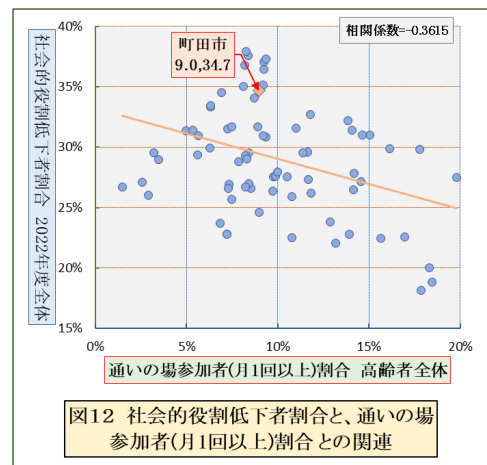
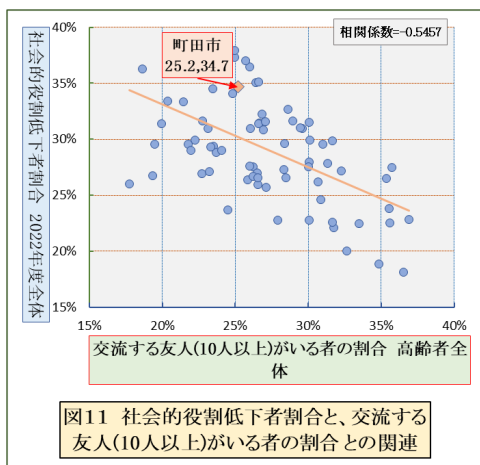
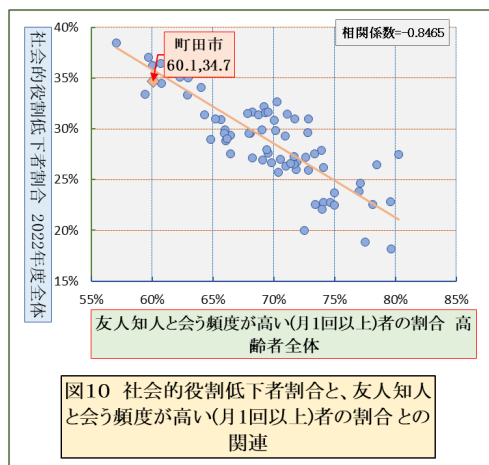
2. 公園・歩道が徒歩圏内にある、図書館利用割合が高い、スポーツの会参加者割合が高いほど、IADL(自立度)低下者割合が少ない



3. 友人知人と会う頻度が高い者や交流する友人がいる者が多いほど、プレフレイルあり割合が低い



4. 友人知人と会う頻度が高い者、交流する友人がいる者や通いの場参加者割合が多いほど、社会的役割低下者割合が少ない



- ・「スポーツの会」「趣味の会」参加者割合が高いことは、強みである「主観的健康感が良い者」が多いことと関連があることがわかりました。
- ・更に「スポーツの会」参加者割合が高いことは、「公園・歩道」や「図書館」といった建造環境とともに、「IADL(自立度)低下者」が少ない関連要因であることがわかりました。
- ・一方、「友人知人と会う頻度が高い」「交流する友人がいる」ことは、プレフレイルや社会的役割低下者などが少ないこととの関連も認められました。
- ・社会参加の一つである「通いの場」参加でも社会的役割低下者が少ないこととの関係が認められました。
- ・課題として挙げられた通いの場や交流（友人知人と会う頻度、交流する友人がいる）は複数の健康関連指標と関連することがわかりました。

市町村内（日常生活圏域）比較から探る重点対象地域

目的

強みや課題だとわかった指標について、日常生活圏域のうち、良い地域と改善の余地が大きい重点対象地域を明らかにすることを目的としました。

方法

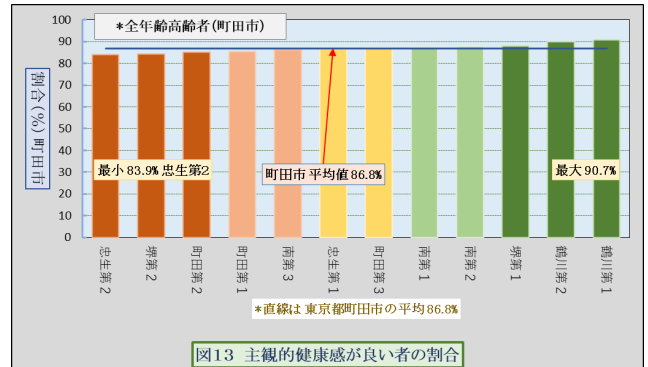
自治体内日常生活圏域別データを用いて、比較しました。

結果

自治体内で、良い地域と改善の余地が大きな地域を比較評価した結果は以下の通りです。

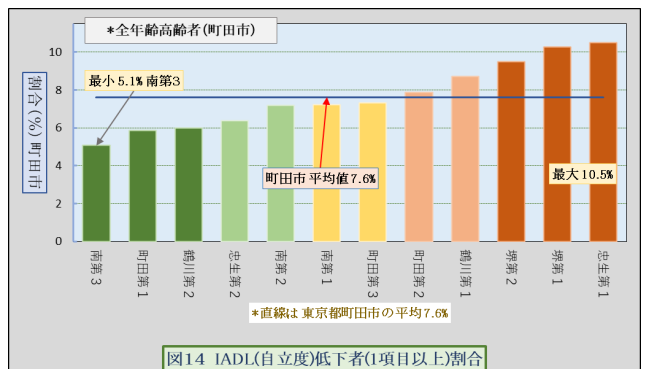
1. 主観的健康感が良い者の割合の圏域比較

- 強みである主観的健康感が良い者の割合は、83.9～90.7%で最大で約7ポイントの差でした。
- 忠生第2(83.9%)が参加市町村平均(84.2%)を下回るものの、いずれの圏域も8割以上が主観的健康感が良いと回答していました。
- さらに、鶴川第1(90.7%)では回答者の9割以上が主観的健康感が良好でした。



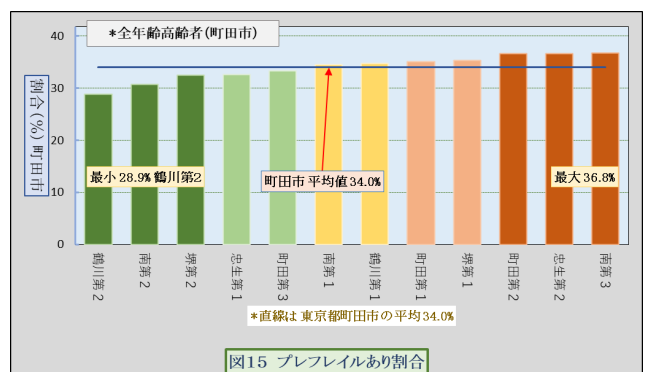
2. 自立度低下者割合の圏域比較

- 強みであるIADL(自立度)低下者(1項目以上)割合には、5.1～10.5%の圏域間格差がありました。
- 重点対象地域は、下位2割の忠生第1(10.5%)、堺第1(10.3%)、堺第2(9.5%)でした。
- 手がかかりは、上位2割の南第3(5.1%)、町田第1(5.8%)、鶴川第2(6.0%)などにあると考えられます。



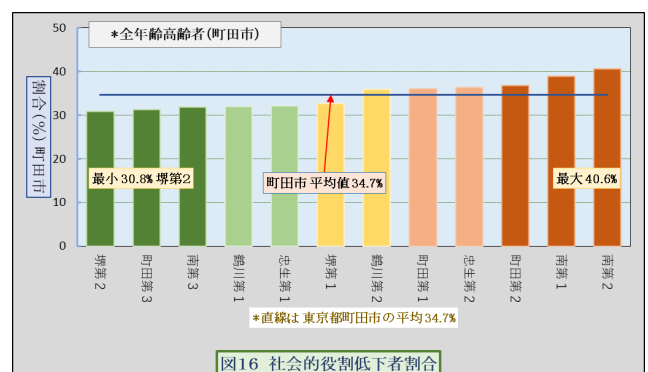
3. プレフレイルあり割合の圏域比較

- プレフレイルあり割合には、28.9～36.8%の圏域間格差がありました。
- 重点対象地域は、南第3(36.8%)、忠生第2(36.6%)、町田第2(36.6%)でした。
- 手がかかりは、上位2割以内の鶴川第2(28.9%)、南第2(30.7%)、堺第2(32.5%)などにあると考えられます。



4. 社会的役割低下者割合の圏域比較

- 社会的役割低下者割合には、30.8～40.6%の圏域間格差がありました。
- 重点対象地域は、南第2(40.6%)、南第1(38.8%)、町田第2(36.8%)でした。
- 手がかかりは、上位2割の堺第2(30.8%)、町田第3(31.2%)、南第3(31.8%)などにあると考えられます。



市町村内（日常生活圏域）比較から探る改善の手がかり

目的

多市町村間比較と相関分析で、課題であるとわかった指標と高い相関を示した社会参加・交流などの指標（p4参照）について、市町村内の日常生活圏域のうち、改善の余地が大きな地域と良い地域とを比較し、手がかりを得ることを目的としました。

方法

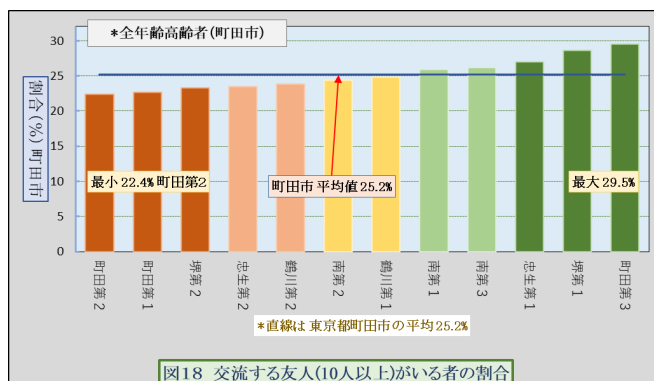
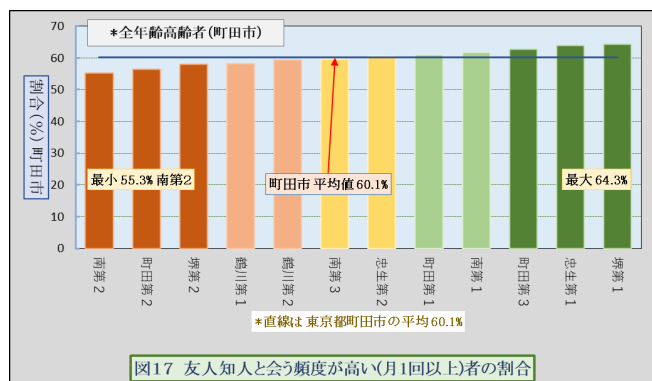
日常生活圏域別データを用いて、社会参加・交流指標について比較しました。

結果

市町村内で、重点支援すべき、改善の余地が大きな地域と、手がかりが得られそうな良い地域は、以下の通りです。

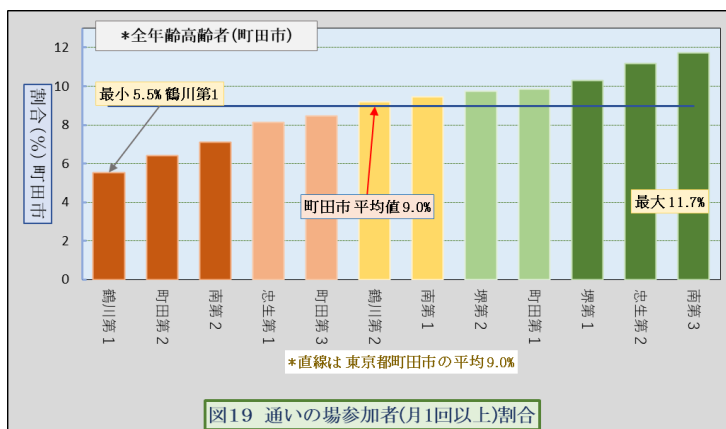
1. 友人知人と会う頻度や交流する友人がいる者の割合の重点対象地域と対策の手がかりは？

- 友人知人と会う頻度が高い(月1回以上)者の割合は、最大9ポイント(55.3～64.3%)、交流する友人(10人以上)がいる者の割合は最大で約7ポイント(22.4～29.5%)の圏域間格差がありました。
- 友人知人と会う頻度、交流する友人がいる者でどちらも下位2割の町田第2、堺第2が重点対象地域と考えられます。
- 手がかりは、いずれも上位2割以内の堺第1、忠生第1、町田第3などにあると考えられます。



2. 通いの場参加者割合の重点対象地域と手がかりが得られそうな地域は？

- 通いの場参加者(月1回以上)割合には、5.5～11.7%の圏域間格差がありました。
- 重点対象地域は、鶴川第1(5.5%)、町田第2(6.4%)、南第2(7.1%)でした。
- 手がかりは、上位2割以内の南第3(11.7%)、忠生第2(11.2%)、堺第1(10.3%)などにあると考えられます。



- 交流(友人知人と会う頻度、交流する友人がいる)、通いの場参加者割合の両者が下位2割以内の重点対象地域は、町田第2でした。
- 交流、通いの場参加者割合の両者が上位2割以内の地域は、堺第1でした。
- 課題解決にあたり、堺第1などの社会参加促進の取り組みなどから交流機会醸成の手がかりが得られやすいと考えられます。

3. グループ活動への参加意向がある者は約6割

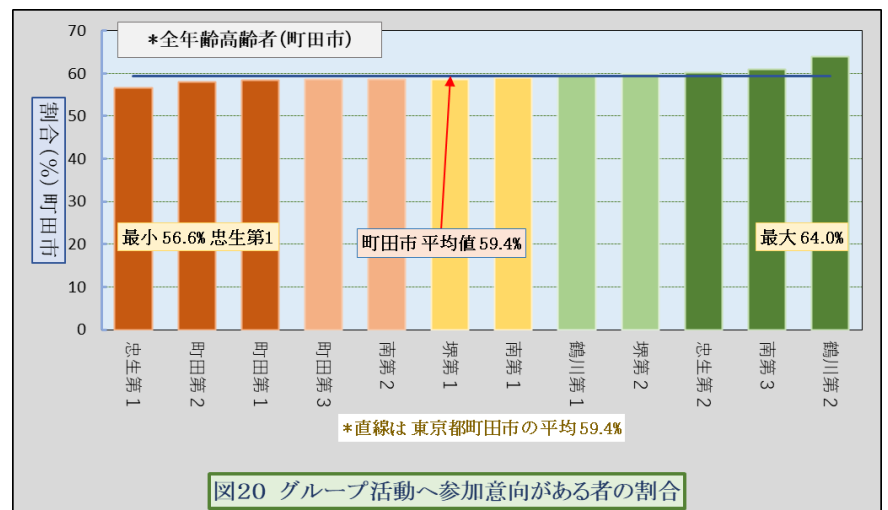
- 「地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加したいと思いますか」という問いに「是非参加したい」「参加してもよい」と回答した人の割合は、約6割にのぼることがわかりました。
- また、「あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか」という問いに「是非参加したい」「参加してもよい」と回答した人の割合は41.8%でした。

表5 75市町村と比較したグループ活動への参加意向

指標名	今回	順位	前回	改善状況	回答者数	平均値	最小値	最大値
グループ活動へ参加意向がある者の割合	59.4	13	57.2	-2.2	3,808	55.9	44.5	65.3
グループ活動(企画・運営)へ参加意向がある者の割合	41.8	21	40.8	-1.0	3,771	39.0	27.4	54.1

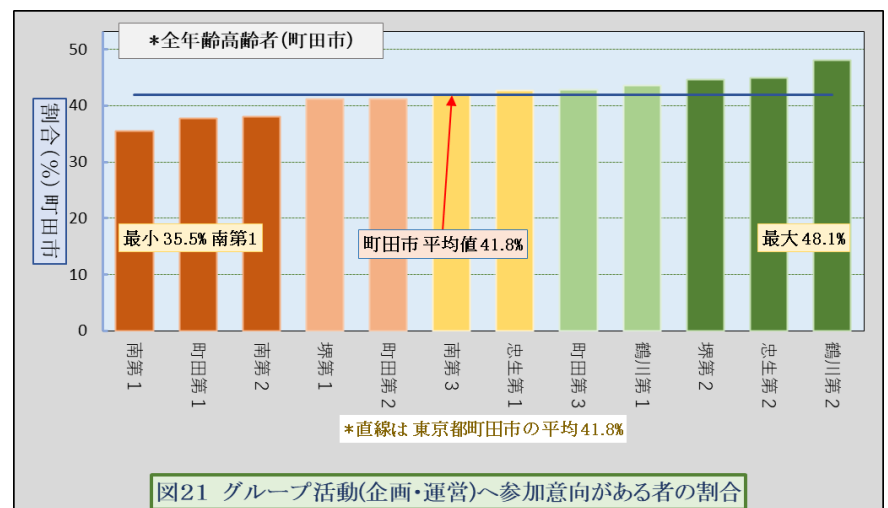
3-1. グループ活動への参加意向がある者の割合の圏域別割合と年代別割合

- 「グループ活動への参加意向がある者の割合」は56.6～64.0%の地域差が認められました。
- 通いの場参加や交流（友人知人と会う頻度、交流する友人がいる）が少なく重点対象地域とされた町田第2でも、「グループ活動へ参加意向がある者の割合」は57.9%でした。
- この参加意向を年代別にみると、後期高齢者(60.7%)が前期高齢者(54.2%)より6ポイントほど高い割合を示していました。



3-2. グループ活動（企画・運営）への参加意向がある者の割合の圏域別割合と年代別割合

- 「グループ活動の企画・運営」への参加意向がある者の割合は35.5～48.1%の地域差が認められました。
- 通いの場参加や交流（友人知人と会う頻度、交流する友人がいる）が少なく重点対象地域とされた町田第2でも、「グループ活動の企画・運営」への参加意向がある者の割合は41.2%でした。
- この参加意向を年代別にみると、前期(41.5%)と後期(41.0%)で割合に大きな差はありませんでした。



市町村内（小学校区）比較から探る重点対象地域

- 目的** 強みや課題だとわかった指標について、小学校区のうち、良い地域と改善の余地が大きい重点対象地域を明らかにすることを目的としました。
- 方法** 自治体内小学校区別データを用いて、比較しました。
- 結果** 自治体内で、良い地域と改善の余地が大きな地域を比較評価した結果は以下の通りです。

1. 主観的健康感が良い者の割合の小学校区比較

- ・ 強みである主観的健康感が良い者の割合は76.4～97.9%の校区間格差がありました。
- ・ 下位は木曽境川小学校区(76.4%)をはじめ、8校区が参加市町村平均の84.2%を下回っていました。
- ・ 山崎小学校区(97.9%)をはじめとする上位7校区では、主観的健康感良好者が9割を超えていました。

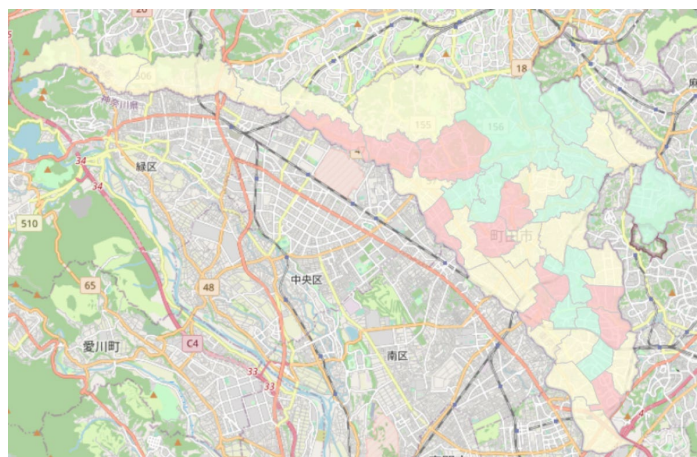
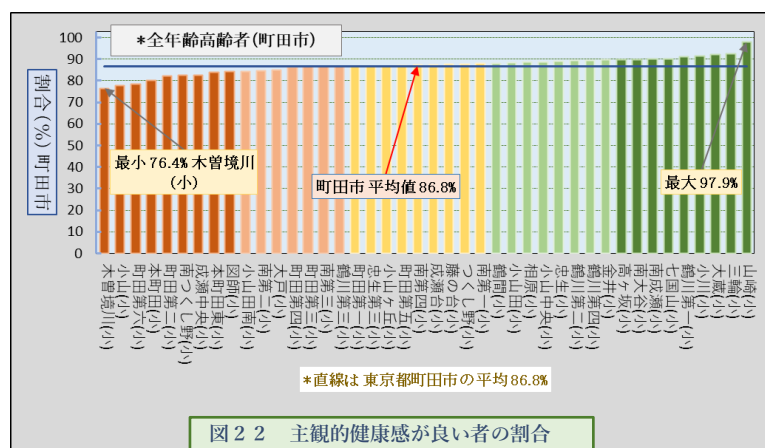


図23 主観的健康感が良い者の校区别分布

2. 自覚度低下者割合の小学校区比較

- ・ 強みであるIADL(自覚度)低下者(1項目以上)でも、1.9～18.2%の校区間格差がありました。
- ・ 下位は大戸小学校区(18.2%)をはじめ、8校区が参加市町村平均の9.9%を上回っていました。
- ・ 上位2割以内の成瀬中央小学校区(1.9%)をはじめ、7校区で5%未満と良好でした。

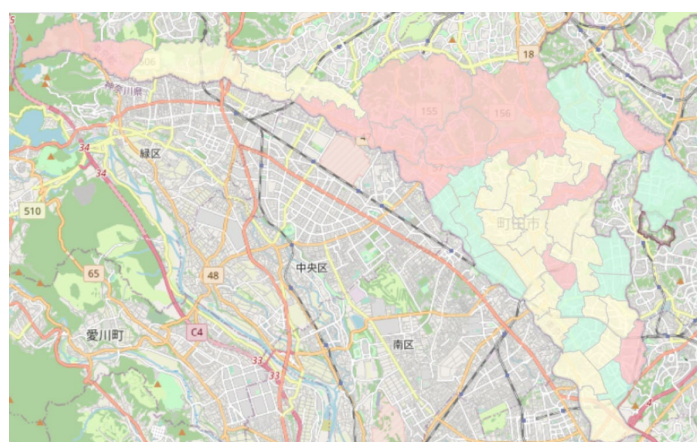
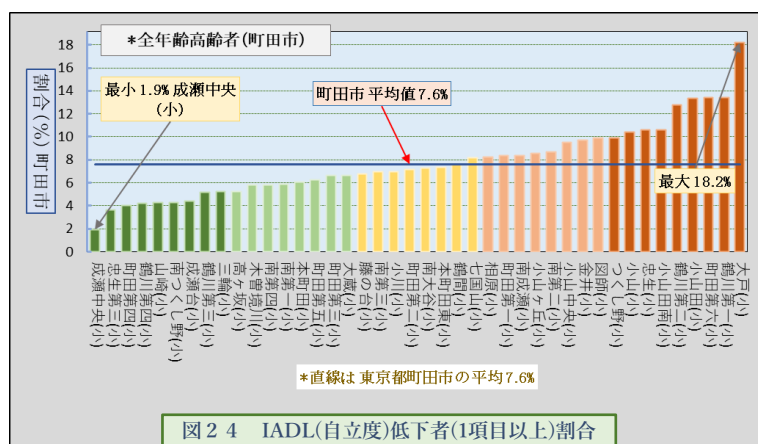


図25 IADL(自覚度)低下者割合の校区别分布

※凡例：色別による順位
上位順位 中位順位 下位順位

3. プレフレイルあり割合の小学校区比較

- ・ プレフレイルあり割合には、23.3～41.1%の校区间格差がありました。
- ・ 重点対象地域は、本町田東(41.1%)、町田第四 (41.0%)、成瀬台 (40.9%)、金井 (40.6%)、町田第三 (40.6%)、大戸 (40.3%)、小山ヶ丘 (39.8%)、成瀬中央 (39.6%)、南つくし野 (39.4%)の各小学校区でした。
- ・ 手がかりは、上位2割以内の南第三 (23.3%)、鶴川第二 (23.4%)、南大谷 (25.5%)、鶴川第四 (26.3%)、鶴川第一 (26.5%)、小山中央 (26.6%)、南第二 (26.8%)、三輪 (28.1%)、小山田南 (28.4%)の各小学校区などにあると考えられます。

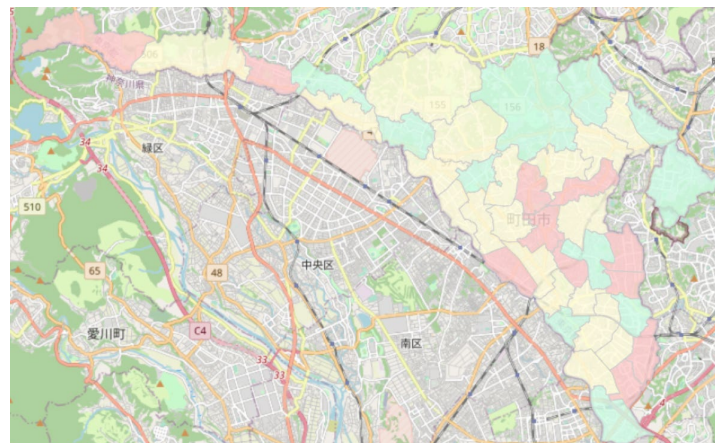
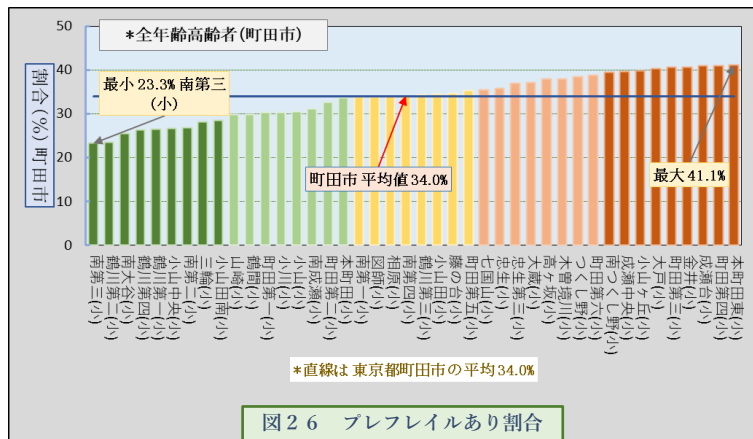


図27 プレフレイルあり割合の校区别分布

4. 社会的役割低下者割合の小学校区比較

- ・ 社会的役割低下者割合には、19.1～50.0%の校区间格差がありました。
- ・ 重点対象地域は、大戸 (50.0%)、金井 (43.7%)、南第四 (43.7%)、南第一 (43.5%)、鶴川第四 (42.1%)、町田第三 (41.9%)、七国山 (41.0%)、鶴川第二 (40.4%)、小川 (40.0%)、本町田東 (40.0%)の各小学校区でした。
- ・ 手がかりは、上位2割以内の山崎 (19.1%)、鶴川第一 (22.4%)、三輪 (26.0%)、南大谷 (26.4%)、大蔵 (27.6%)、相原 (28.2%)、小山中央 (28.6%)、町田第五 (29.7%)、小山 (29.8%)の各小学校区などにあると考えられます。

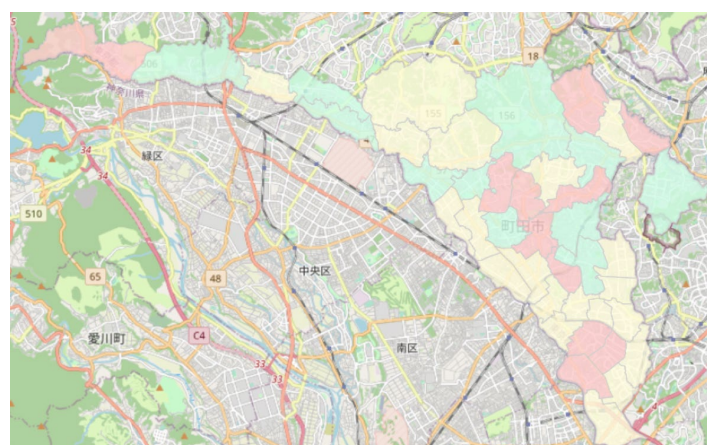
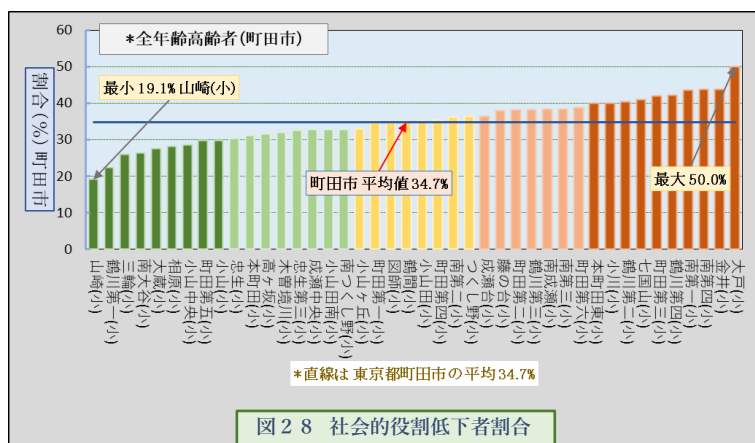


図29 社会的役割低下者割合の校区别分布

- ・ 強みである「主観的健康感」や「IADL(自立度)低下」にも、42小学校区の校区间では大きな差があり、主観的健康感では大多数(97.9%)の人が良好な校区と、76.4%に止まる校区まで開きがありました。
- ・ 課題指標である「プレフレイル」「社会的役割低下者」についても、それぞれ17.8ポイント、30.9ポイントの校区间の差がありました。

市町村内（小学校区）比較から探る改善の手がかり

目的

多市町村間比較と相関分析で、課題であるとわかった指標と高い相関を示した社会参加・交流などの指標（p3,4参照）について、市町村内の小学校区のうち、改善の余地が大きな地域と良い地域とを比較し、手がかりを得ることを目的としました。

方法

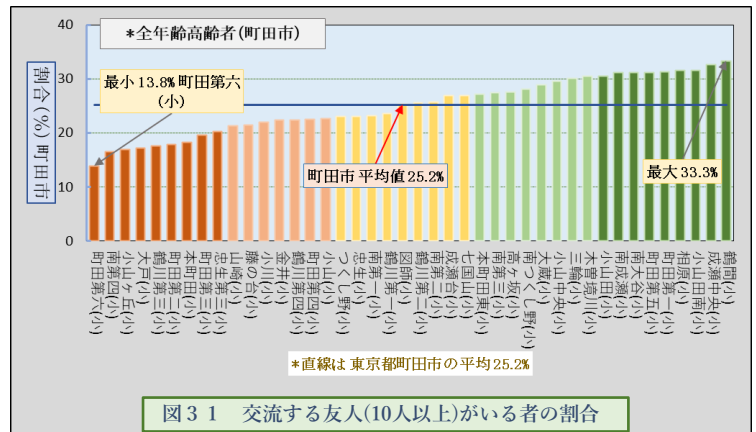
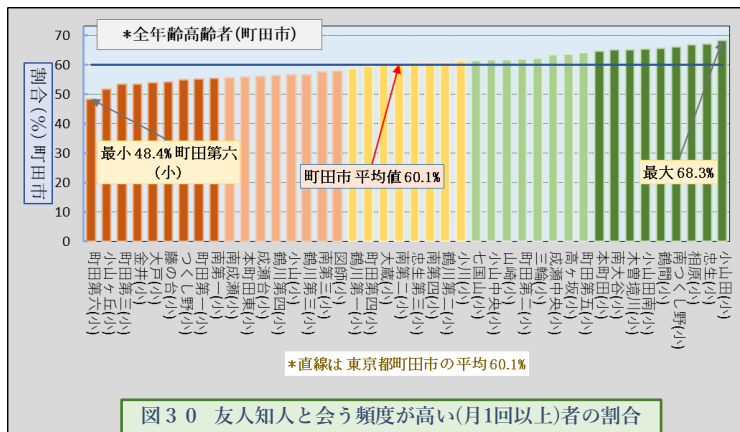
小学校区別データを用いて、社会参加・交流指標について比較しました。

結果

市町村内で、重点支援すべき、改善の余地が大きな地域と、手がかりが得られそうな良い地域は、以下の通りです。

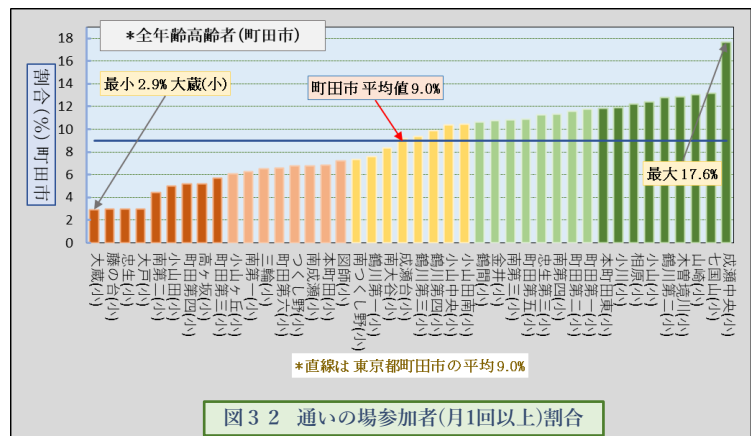
1. 友人知人と会う頻度や交流する友人がいる者の割合の重点対象地域と対策の手がかりは？

- 友人知人と会う頻度が高い(月1回以上)者の割合は、48.4～68.3%の校区間格差がありました。また、交流する友人がいる者の割合は、13.8～33.3%の校区間格差がありました。
- 町田第六、小山ヶ丘、町田第三、大戸の各小学校区はいずれの指標も下位2割以内で、重点対象地域と考えられます。
- 手がかりは、いずれも上位2割以内の小山田、相原、鶴間、小山田南、南大谷の各小学校区などにあると考えられます。



2. 通いの場参加者割合の重点対象地域と手がかりが得られそうな地域は？

- 通いの場参加者(月1回以上)割合には、2.9～17.6%の校区間格差がありました。
- 下位2割以内は、大蔵 (2.9%)、藤の台 (3.0%)、忠生 (3.0%)、大戸 (3.0%)、南第二 (4.4%)、小山田 (5.0%)、町田第四 (5.2%)、高ヶ坂 (5.2%)、町田第三 (5.7%)の各小学校区で、重点対象地域と考えられます。
- 手がかりは、成瀬中央小学校区(17.6%) などにあると考えられます。



- 交流(友人知人と会う頻度、交流する友人がいる)や通いの場参加者割合のいずれもが下位2割以内の重点対象地域は、大戸小学校区、町田第3小学校区でした。
- 成瀬中央小学校区はいずれも上位に位置し、特に通いの場参加者割合は42校区中でも特に高い割合となっています。
- 課題解決にあたり、通いの場などへの社会参加が多く、交流の機会が多い地域を探すと手がかりが得られやすいと考えられます。

町田市の地域診断 概要 2022

JAGES「健康とくらしの調査2022」に参加した75市町村を比較評価した結果、以下のことがわかりました。

1 市町村間比較から見る特徴・強みと課題

- 特徴・強みは「IADL低下者割合」「主観的健康感が良い者の割合」などの健康関連指標が良いこと、「スポーツの会」「趣味の会」などの社会参加の割合が多いことでした。
- 一方、課題は、「社会的役割低下者割合」「プレフレイルあり割合」が多いこと、「通いの場」の参加者や「友人知人と会う頻度が高い者の割合」「交流する友人がいる者の割合」が少ないことでした。

2 特徴・強みや課題と関連する要因

- 「スポーツの会」「趣味の会」参加者割合が多いことが、町田市の特徴・強みである「主観的健康感」や「IADL(自立度)低下者割合」が良い一因と考えられます。これらの強みを維持するため、引き続き「スポーツの会」「趣味の会」参加者割合を高い水準で維持することが重要と考えられます。
- 一方で、課題である「通いの場」への参加を増やすことで、「友人知人と会う頻度」「交流する友人がいる」機会にもつながり、それらにより「社会的役割低下者割合」「プレフレイル」が減る可能性が示唆されました。

3 市町村内（日常生活圏域）比較から探る重点対象地域

- 日常生活圏域間比較では、強みである「主観的健康感」には圏域間格差はほとんどありませんでしたが、「IADL(自立度)低下者」には約2倍の圏域間格差がありました。
- 課題である「社会的役割低下者」「プレフレイル」ではそれぞれ1.3倍程度の圏域間格差がありました。

4 市町村内（日常生活圏域）比較から探る重点対象地域改善の手がかり

- P4に挙げた健康課題の全国75市町村の相関関係は、町田市12日常生活圏域でも同様の傾向が認められました。そのため、健康課題の克服のための手がかりは、通いの場参加者や交流（友人知人と会う頻度、交流する友人がいる）が多い地域から得られると期待できます。
- 交流や通いの場のいずれでも重点対象地域は、町田第2でした。課題解決の手がかりは堺第1などにあると考えられます。
- 重点対象地域と考えられる町田第2(57.9%)も含め、12圏域全体でグループ活動への参加意向は約6割を占めていました。町田第2では特に後期高齢者(60.7%)で参加意向を示しており、通いの場などの社会参加へのきっかけづくりを進めることで、交流機会の醸成につながると考えられます。

5 市町村内（小学校区）比較から探る重点対象地域

- 小学校区の校区間比較では、強みである「主観的健康感」や「IADL(自立度)低下者」にも1.3～9.5倍程度の校区間の格差がありました。
- 課題である「社会的役割低下者」「プレフレイル」では1.7～2.6倍程度の校区間の格差がありました。
- 大戸小学校区は強み・課題双方で重点対象地域になると考えられます。

6 市町村内（小学校区）比較から探る重点対象地域改善の手がかり

- P4に挙げた健康課題の全国75市町村の相関関係は、町田市42小学校区でも同様の傾向が認められました。そのため、健康課題の克服のための手がかりは、交流（友人知人と会う頻度、交流する友人がいる）や通いの場参加者が多い地域から得られると期待できます。
- 交流や通いの場のいずれでも重点対象地域は、大戸小学校区、町田第3小学校区でした。課題解決の手がかりは成瀬中央小学校区などにあると考えられますが、社会参加や交流の活発な地域の事例を探すと得られやすいと考えられます。